

平成25年度第4回

中小企業景況調査報告書

平成26年 1月～ 3月期 報告
平成26年 4月～ 6月期 予測

千葉県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 26 年 1 月～3 月期

調査要領

1. 調査対象

(1)対象地域

11 商工会地域 千葉市土気商工会、鴨川市商工会、鎌ヶ谷市商工会、富津市商工会、南房総市内房商工会、匝瑳市商工会、いすみ市商工会、酒々井町商工会、栄町商工会、多古町商工会、長柄町商工会

(2)対象企業数 165 企業(11 商工会×15 企業)

(3)回答企業数 165 企業

2. 調査対象期間 平成 26 年 1 月～3 月を対象とし、調査期間は平成 26 年 2 月 21 日～3 月 3 日である。

3. 調査方法 商工会の経営指導員による訪問面接調査。

(1)産業別構成

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	28	17.0
建 設 業	31	18.8
小 売 業	46	27.9
サービス業	60	36.3
合 計	165	100.0

(2) 業種別構成

① 建設業

業 種	回答企業数	構成比(%)
総合工事業	15	48.4
職別工事業	7	22.6
設備工事業	9	29.0
合 計	31	100.0

② 製造業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
食料品製造業	6	21.4
プラスチック製品製造	5	17.9
印刷・同関連業	1	3.6
窯業・土石製品製造業	1	3.6
金属製品製造業	5	17.9
生産用機械器具製造業	4	14.3
業務用機械器具製造業	2	7.1
電気機械器具製造業	1	3.6
その他の製造業	3	10.7
合 計	28	100.0

③ 小売業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
各種商品小売業	1	2.1
織物・衣服・身の回り品小売業	5	10.9
飲食料品小売業	16	34.8
自動車・自転車小売業	3	6.5
家具・建具・じゅう器小売業	5	10.9
合 計	46	100.0

④ サービス業

業 種	回答企業数	構成比 (%)
一般飲食店	25	41.7
宿泊業	6	10.0
運送業	3	5.0
自動車整備業	7	11.7
洗濯・理美容業	12	20.0
その他のサービス業	7	11.7
合 計	60	100.0

本報告書中の[DI 値]とあるのは、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転、上昇)企業割合から、減少(悪化、低下)企業割合を差し引いた値を示すものである。

I. 県下中小企業の景況

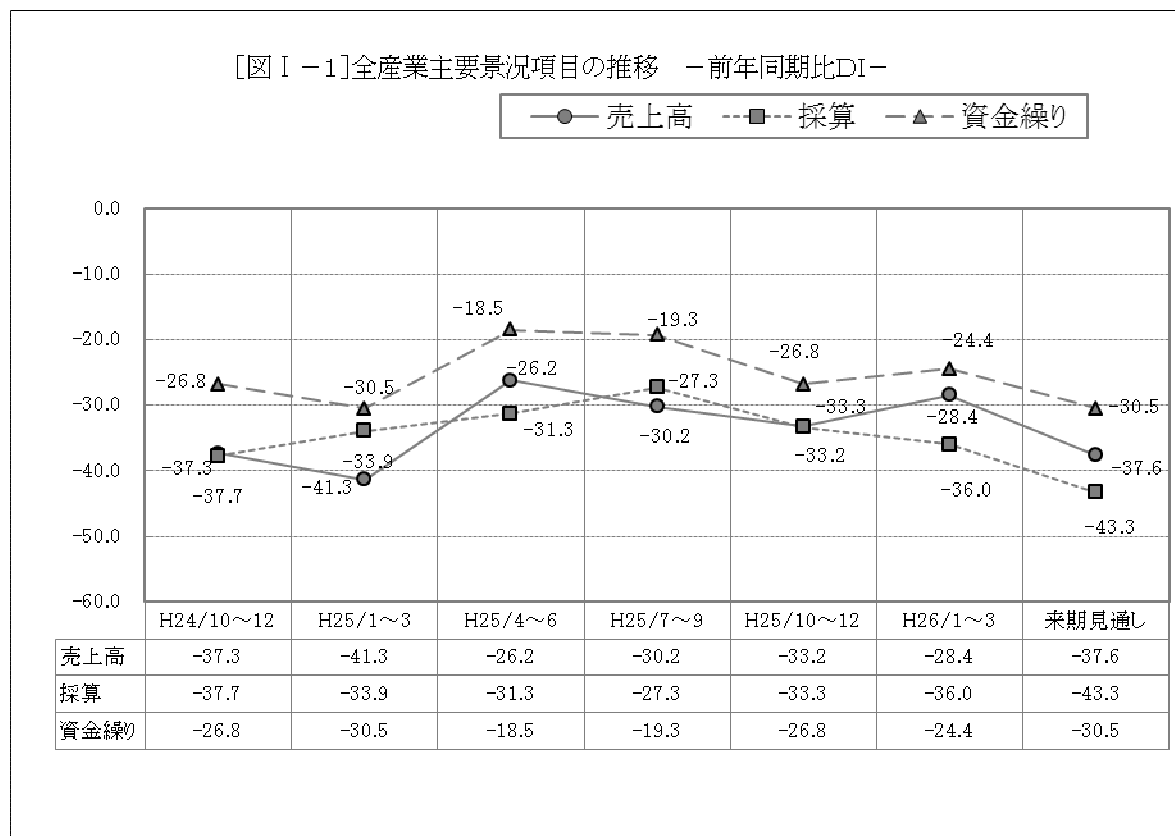
“駆け込み需要による効果はあるも、先行き不透明”

千葉県商工会地区の平成26年1～3月期中小企業景況調査結果によると、産業全体の景況感は[図I-1]に示したとおり、今期売上高DI値は-28.4、前年（平成25年10～12月期、-33.2）比で4.8ポイント改善、同採算DI値は-36.0、前期（-33.3）比で2.7ポイント悪化、同資金繰りDI値は-24.4、前期（-26.8）比で2.4改善しており、見通し値は下回っているものの、売上面においては、駆け込み需要の効果があったものとする。

また、前年同期（平成25年1～3月期）調査と比較してみると、売上高DI値は、前年同期（-41.3）比で12.9ポイント増、マイナス幅が縮小している。採算DI値については、前年同期（-33.9）比で2.1ポイント減、マイナス幅が拡大、資金繰りDI値は、前年同期（-30.5）比で6.1ポイント増、マイナス幅が縮小しており、昨年後期の低迷から復調途上の状況といえる。

このように、今期は全体的には、駆け込み需要や設備投資の需要が増加したことにより、売上高、資金繰りはやや改善。一方で、原材料やその他経費高騰等により、特に、小売業、サービス業については、採算が悪化している状況である。

また、来期（平成26年4～6月期）については、消費税増税後の買い控えが予測されており、全業種でマイナスの見通しを立てている。消費税増税が景気へ及ぼす影響については、来期以降慎重に検証する必要がある、事業者の抱える課題に適切に対応していくことが極めて重要である。



II. 各産業の景況

1. 製造業の景況

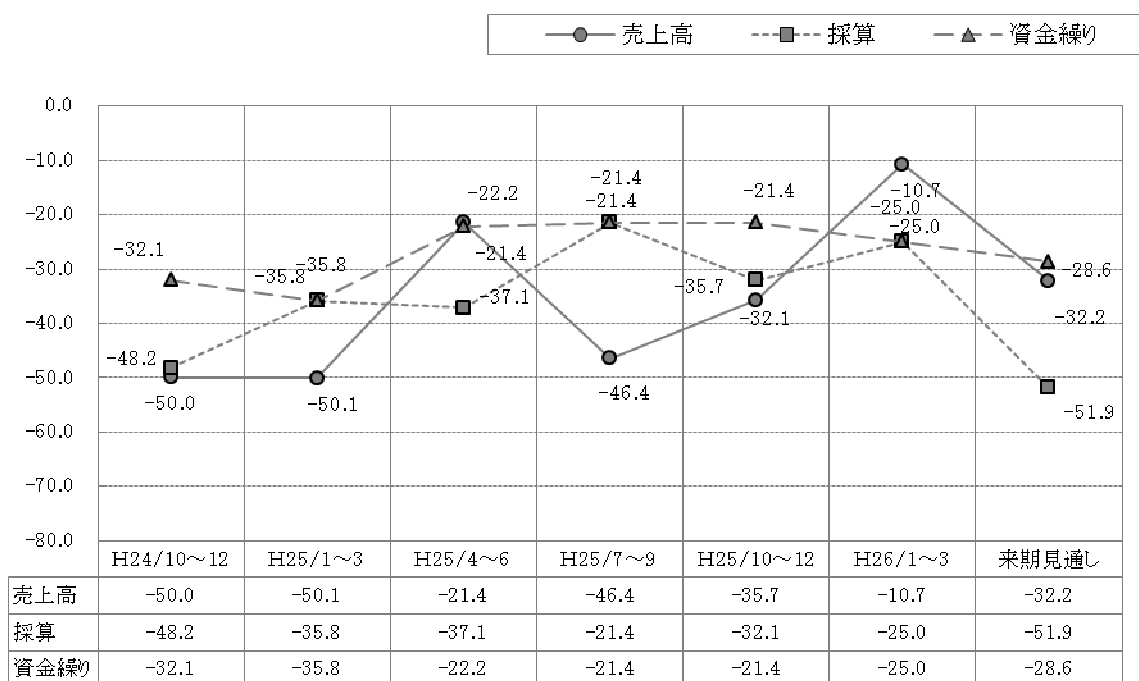
“景況感は上向き傾向にあるも・・・”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

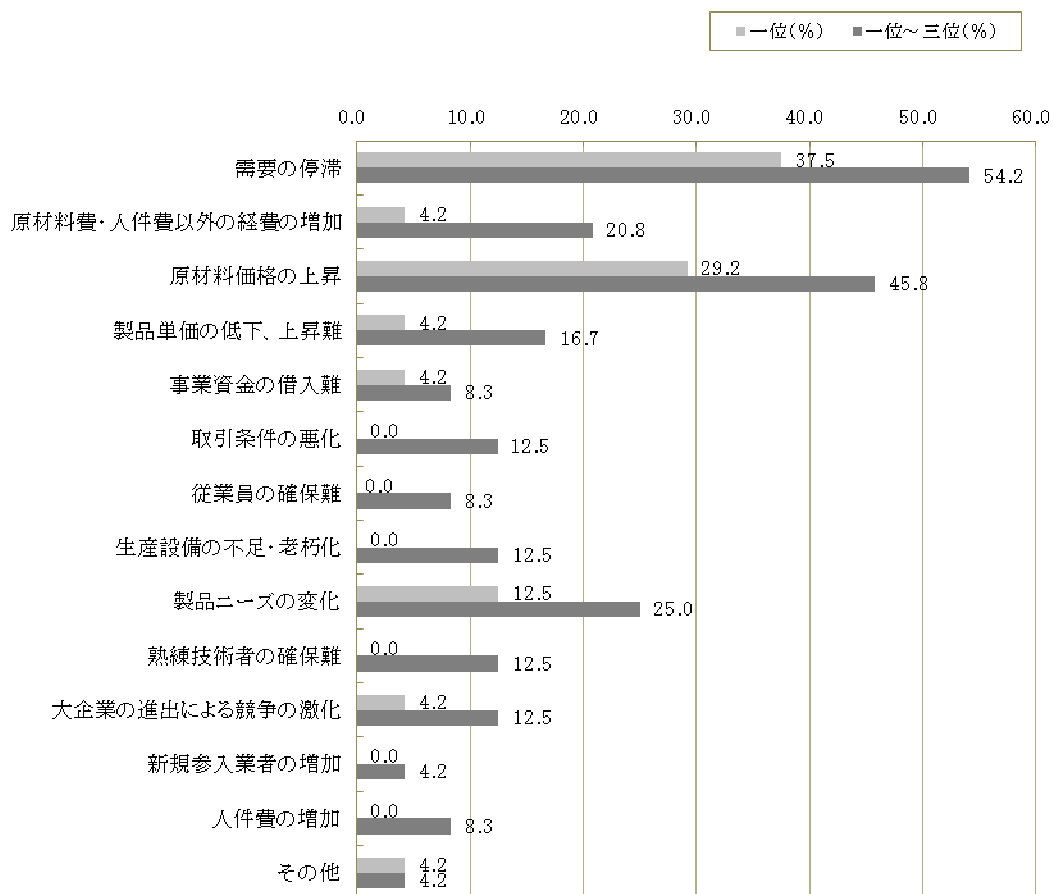
千葉県商工会地区における製造業の景況は、設備投資需要の拡大や駆け込み需要もあり、今期については、売上高、採算ともに DI 値は改善されている。また、自社の設備需要も増えたことから資金繰りはやや悪化という状況となるも、全体的に回復傾向にある。一方で、増税後の反動が懸念されるため、今後の見通しは、全ての項目で悪化の回答が目立ち、景気の腰折れが心配される。

今期の新規設備投資については4社が実施。内訳は、工場建物が1社、生産設備の導入が3社となっている。また、来期計画では生産設備、OA機器の導入を各1社が予定している。

[図Ⅱ-1] 製造業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI -
















[図Ⅱ-2] 製造業 経営上の問題点の状況



2. 建設業の景況

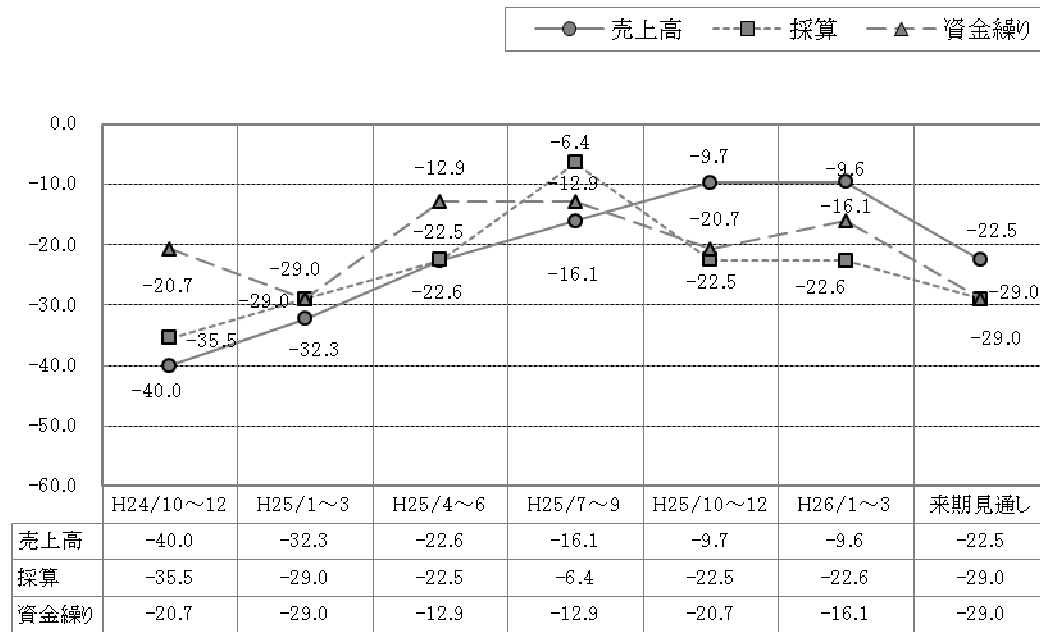
“採算面の不安材料あるも、引き続き好調”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

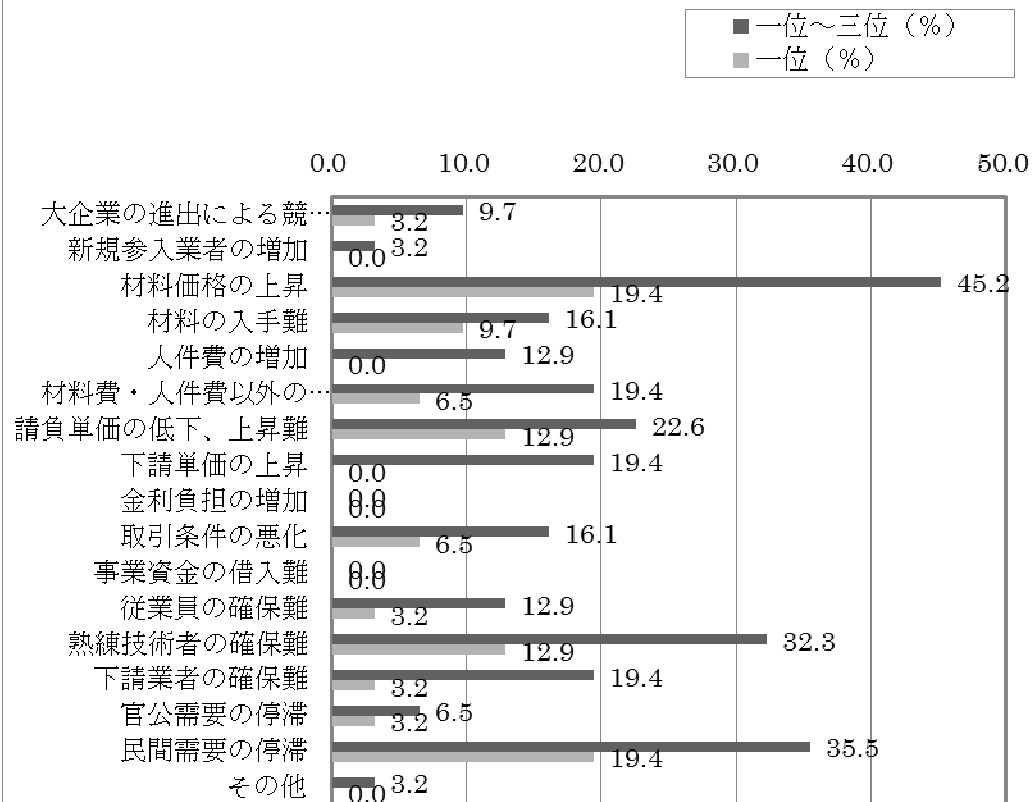
千葉県商工会地区における建設業の景況は、売上高 DI 値は-9.6、前期(-9.7)比で 0.1 ポイントではあるが改善し、5 期連続の改善となっている。しかしながら、受注単価の上昇難、材料費高騰、熟練技術者の確保難という採算を悪化させるマイナス要因は相変わらず存在するも、採算 DI 値は-22.6、前期(-22.5)比で 0.1 ポイントの悪化程度で留まっており、景況感の良さは持続している。増税後の反動については製造業同様懸念され、来期以降慎重に分析する必要がある。

新規設備投資については、車両運搬具の導入が 3 社、付帯施設の購入が 1 社、OA 機器の導入が 2 社、計 6 社の設備投資が行われた。来期計画では建物、OA 機器の導入予定について 4 件の回答があった。

[図Ⅱ-3]建設業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















「図表Ⅱ-4」建設業 経営上の問題点の状況



3. 小売業の景況

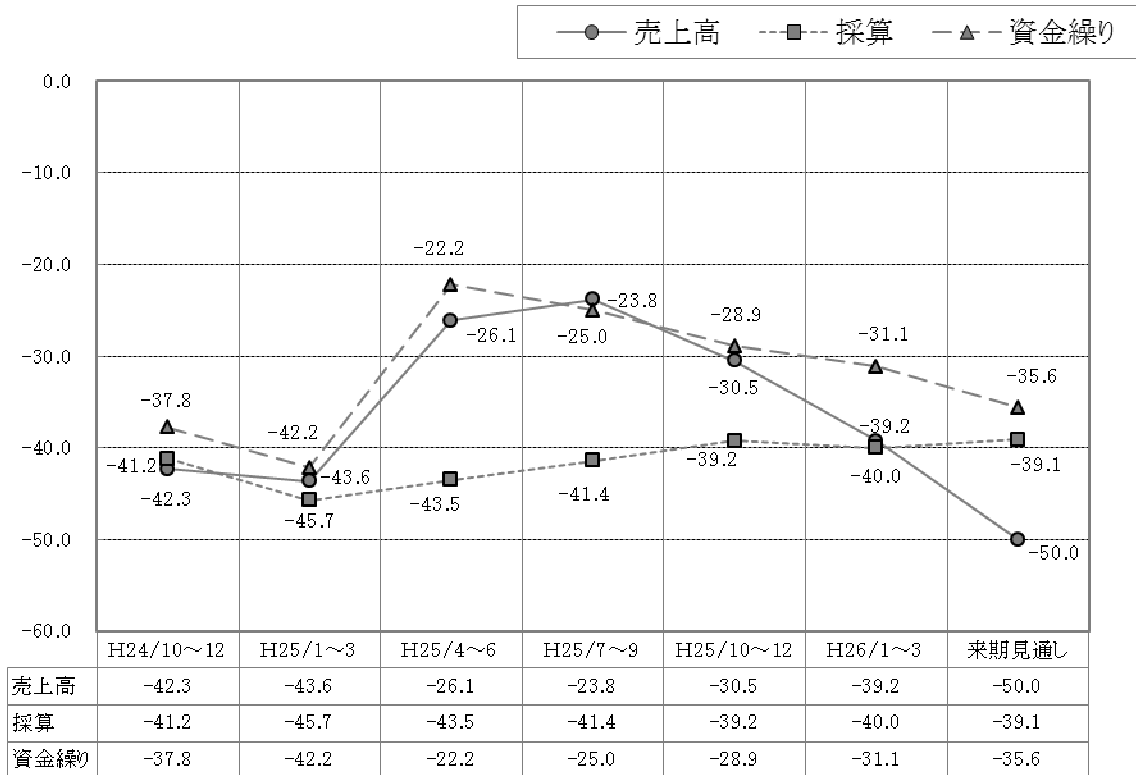
“消費低迷が続き、先行きの見えない状況に”

	今期の景況	来期の見通し	
売上高			 :DI 値 +30～
採算			 :DI 値 +10～+30
資金繰り			 :DI 値 +10～-10
総合			 :DI 値 -10～-30
			 :DI 値 -30～

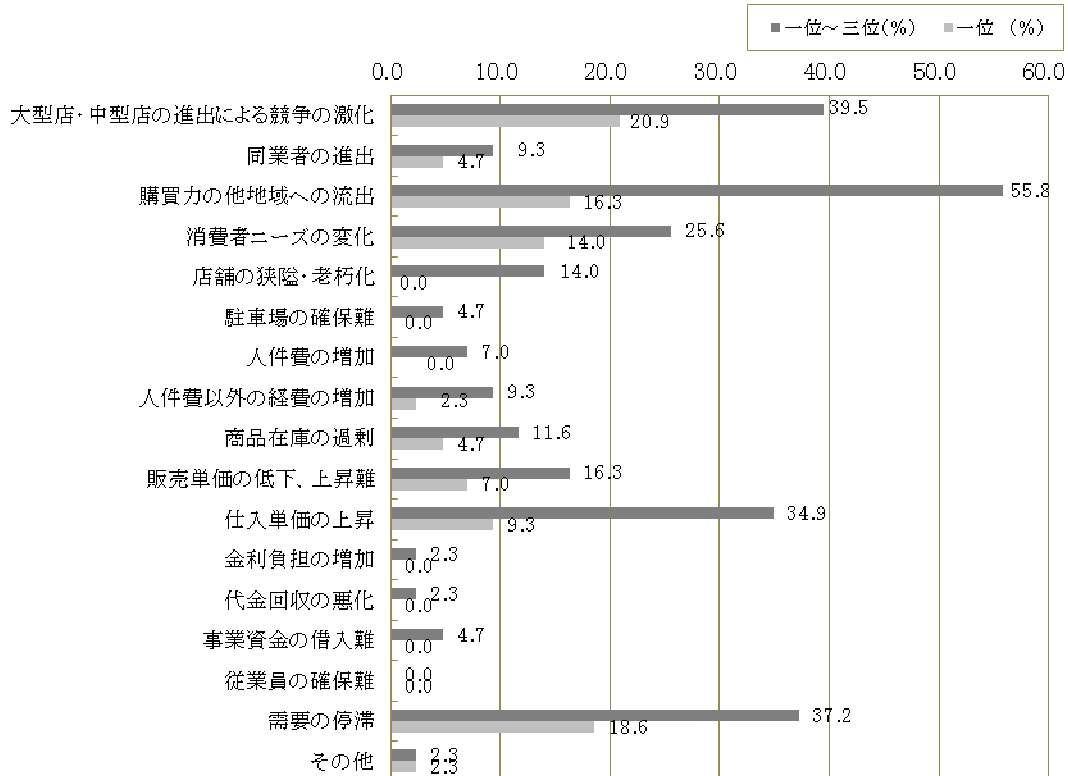
千葉県商工会地区における小売業の景況は、大型店進出等による商圈の拡大と、他地域への購買力の流出、需要の停滞が重なり、売上高 DI 値は、2 期連続の悪化となった。また、小幅ではあるが改善していた採算 DI 値も仕入単価の上昇、販売単価の低下、上昇難により、再度悪化している。また、今後の見通しについては、増税後の買え控えの影響が懸念され、売上高、資金繰り DI 値の悪化が予測されている。小売業については、引き続き厳しい状況が続くと考えられ、売上の確保、採算の改善をしっかりと行う必要がある。

なお、今期の新規設備投資は O A 機器導入 1 件だった。来期計画では 2 事業者から車両・運搬具の購入を予定していると回答があった。

[図Ⅱ-5]小売業主要景況項目の推移 - 前年同期比DI-
















[図Ⅱ-6]小売業 経営上の問題点の状況



4. サービス業の景況

“競争優位性構築が急務”

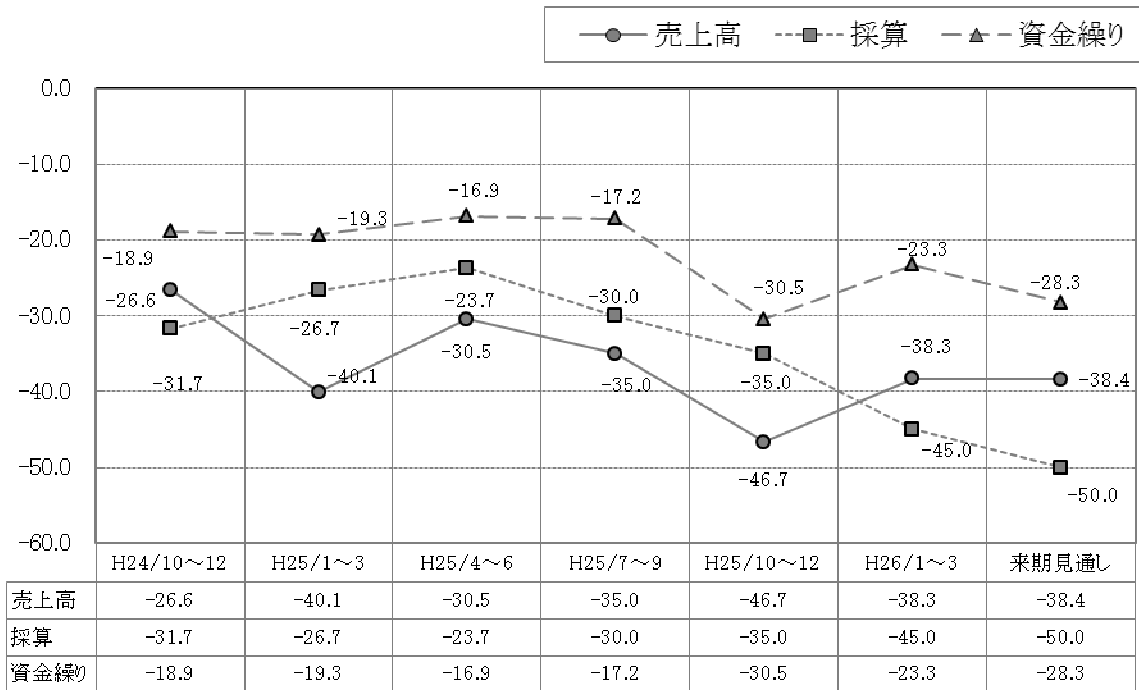
	今期の景況	来期の見通し	
			 :DI 値 +30～
売上高			 :DI 値 +10～+30
採算			 :DI 値 +10～-10
資金繰り			 :DI 値 -10～-30
総合			 :DI 値 -30～

千葉県商工会地区におけるサービス業の景況は、売上高、資金繰りのDI値はやや改善したもの、採算DI値は3期連続で悪化している。材料等仕入単価の上昇、利用料金の低下、上昇難以外に人件費以外の経費の増加が増えている。

来期の見通しについては全項目で悪化傾向を見込んでおり、小売業同様、サービス業においても、極めて厳しい状況が続くと考えられる。特に競争優位性を構築できていないケースが多く、サービス自体の見直しから、収益性の改善まで経営力向上への取組みが早急に必要と思われる。

新規設備投資については、車両・運搬具、付帯施設、OA機器で4件の導入実績があり、来期計画では建物、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設、その他で、計5件の導入予定について回答があった。

[図Ⅱ-7]サービス業主要景況項目の推移 ー前年同期比DIー



[図Ⅱ-8]サービス業 経営上の問題点の状況

